

2024年11月 東京地区百貨店売上高概況

2024年12月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1,560億円余
2. 前年同月比(増減率)	2.7%(3か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭2.2%(89.8%)：非店頭6.6%(10.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年10月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	672,619㎡ (前年同月比：-9.6%)
6. 総従業員数	12,473人 (前年同月比：-9.0%)
7. 3か月移動平均値	4-6月 14.8%、5-7月 13.7%、6-8月 10.5%、 7-9月 4.8%、8-10月 1.4%、9-11月 0.5%

[参考] 2023年11月の売上高増減率は9.7%

【特徴】

11月の東京地区は、入店客数は7.6%減だったものの、売上高は2.7%増と3か月ぶりにプラスに転じた。月後半の気温低下でコート等の重衣料が好調に推移したほか、訪日客数が11月として過去最高を記録したこと等を背景に、免税売上も10月同様高伸した。また、各社企画の食品催事や優待企画等も売上増に寄与した。商品別では衣料品、身のまわり品、雑貨がプラス。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(9.3%増)：気温低下でコート、ジャケット、セーター等防寒商品が好調。特にコートはウール、非ウール共に好調。子供服・洋品はインバウンド需要もあり4.3%増と2か月ぶりにプラス転換。その他衣料品では、ゴルフ関連や冬物寝具にも動き。

身のまわり品(4.5%増)：ラグジュアリーブランドを中心に好調継続。特にハンドバッグや財布等の革小物が好調。婦人靴ではショートブーツにも動き。ホリデーギフトやボーナス需要もあり、アクセサリーが高伸。

雑貨(4.8%増)：高付加価値商材が好調に推移し、美術・宝飾・貴金属は7.7%増と3か月ぶりにプラス。化粧品は国内外共に高伸し、限定品等クリスマスコフレが人気で二桁増。

食料品(2.1%減)：価格高騰の影響から全品目で前年割れとなったが、菓子はギフト需要が見られたほか、和洋酒ではインバウンド需要も牽引。おせちはネット受注が増加傾向。

12月足元動向：ギフト商戦も本格稼働し、重衣料や化粧品が堅調で前年比0.8%減(12/18時点)で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した：13店、②変化なし：2店、③減少した：3店
- (3) 11月歳時記(歳暮、七五三)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した：3店、②変化なし：5店、③減少した：4店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年11月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	156,013,117	100.0	2.7
紳士服・洋品	12,085,349	7.7	6.6
婦人服・洋品	26,289,155	16.9	11.3
子供服・洋品	1,995,902	1.3	4.3
その他衣料品	1,819,024	1.2	4.5
衣 料 品	42,189,430	27.0	9.3
身のまわり品	26,105,052	16.7	4.5
化粧品	13,773,204	8.8	13.1
美術・宝飾・貴金属	16,836,613	10.8	7.7
その他雑貨	4,125,011	2.6	-22.3
雑 貨	34,734,828	22.3	4.8
家 具	1,383,271	0.9	-13.0
家 電	1,214,616	0.8	-27.9
その他家庭用品	3,383,472	2.2	11.4
家 庭 用 品	5,981,359	3.8	-5.2
生 鮮 食 品	5,179,182	3.3	-3.6
菓 子	12,365,202	7.9	-0.1
惣 菜	8,061,992	5.2	-2.2
その他食料品	14,444,485	9.3	-3.1
食 料 品	40,050,861	25.7	-2.1
食 堂 喫 茶	2,117,975	1.4	-11.2
サ ー ビ ス	2,370,108	1.5	15.8
そ の 他	2,463,504	1.6	-31.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,588,133 千円	-8.3
従 業 員 数	12,473 人	-9.0
店 舗 面 積	672,619 m ²	-9.6

営 業 日 数	30.0 日	前 年	30.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は衣料品、身のまわり品、雑貨がプラスとなった一方、家庭用品、食料品がマイナスとなった。その他の品目は、婦人服・洋品が2か月連続、紳士服・洋品、美術・宝飾・貴金属が3か月ぶり、化粧品が39か月連続でプラスとなったが、生鮮食品が8か月連続、菓子、惣菜が5か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	2.7	—	3か月ぶりプラス
紳士服・洋品	6.6	0.5	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	11.3	1.8	2か月連続プラス
子供服・洋品	4.3	0.1	2か月ぶりプラス
その他衣料品	4.5	0.1	4か月ぶりプラス
衣料品	9.3	2.4	3か月ぶりプラス
身のまわり品	4.5	0.7	39か月連続プラス
化粧品	13.1	1.0	39か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.7	0.8	3か月ぶりプラス*
その他雑貨	-22.3	-0.8	3か月連続マイナス*
雑貨	4.8	1.1	3か月ぶりプラス
家具	-13.0	-0.1	2か月連続マイナス
家電	-27.9	-0.3	4か月ぶりマイナス
その他家庭用品	11.4	0.2	2か月ぶりプラス
家庭用品	-5.2	-0.2	2か月連続マイナス
生鮮食品	-3.6	-0.1	8か月連続マイナス*
菓子	-0.1	-0.0	5か月連続マイナス*
惣菜	-2.2	-0.1	5か月連続マイナス*
その他食料品	-3.1	-0.3	8か月連続マイナス*
食料品	-2.1	-0.6	5か月連続マイナス
食堂喫茶	-11.2	-0.2	5か月連続マイナス
サービス	15.8	0.2	2か月連続プラス
その他	-31.2	-0.7	6か月ぶりマイナス
商品券	-8.3	-0.2	9か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>